

## ワインファームの農業体験で地域社会と環境保全に貢献 センサーを活用した農業支援も開始しました



富士通グループは、山梨県甲州市に「富士通 GP2020 ワインファーム」を開設し、地域社会や生物多様性保全への貢献と環境教育に取り組んでいます。ブドウ農園を社員らの農業体験の場として活用するだけでなく、2011年6月からは富士通が開発したセンサーボックスを活用し、農業支援を開始しました。

### ワインファームでの農業体験

富士通グループは、山梨県が推進する「やまなし企業の農園づくり※」制度を利用し、2010年3月に夢郷葡萄研究所と協働協定を結びました。ブドウ農園の一角に開設した「富士通 GP2020 ワインファーム」において、社員やその家族がブドウの育成を体験し、農作業のお手伝いをしています。

2011年5月の活動では、剪定時に少し多めに残しておいた芽を樹勢にあわせて適切な数に整える「芽かき」作業を実施。これから成長させるブドウの芽を選定し不要な芽を摘み取る作業には、高い知識と技術が求められます。参加者からは「ブドウ栽培の奥深さに触れることができ、芽かきの大変さも実感しました」という声が寄せられました。

続く7月は、雨に起因するブドウの病気を防ぐために



1日の作業でかけた傘紙は何と2,500枚!



傘紙かけはやり残しがないように垣根の両側からペアで

傘紙を取り付ける作業を実施。当日、畑の気温が35度を超える炎天下でも「中腰での傘紙かけは非常にハードでしたが、その分、作業後には大きな達成感を得られました」と充実した様子の参加者たち。農業体験を楽しみながら、農地の適切な管理がもたらす生物多様性保全への貢献についても理解を深めていました。

### センサーを活用した農業支援

ワインの醸造には、ブドウの収穫時期や色素の度合いを見極めることが重要であり、ブドウ農園における気温の変化を把握することが有効であると言われております。そこで富士通グループは、温度センサーと簡易カメラが一体となったセンサーボックスを開発し、畑の気温データとブドウの画像を管理事務所で収集できるシステムを構築。これにより、ブドウ農園に出向くことなく詳細な温度データを集計・分析することが可能となり、害虫の発生予測や病気の予防等ブドウの品質向上にも一役買っています。

今後も富士通グループは「Green Policy 2020」の実現に一層の努力を続け、地域社会や生物多様性保全に貢献してまいります。

※「農地の有効利用等のために、労力を提供してほしい農村地域」と「社員の福利厚生や研修、地域貢献を行いたい企業」の双方の目的を達成させ、農村地域の活性化や地域交流を図る活動。



富士通グループは、先進的な環境への取り組みが評価され、環境大臣より「エコファースト企業」として認定されました。

Let's SUPER COOLBIZ\*

富士通グループはチャレンジ25キャンペーンに参加し、スーパークールビズを実施しています。

### FUJITSU JOURNAL 富士通ジャーナル

発行 富士通株式会社  
マーケティング本部 eマーケティング部  
〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 (汐留シティセンター)  
印刷 富士通アプリコ株式会社

本誌ならびに本誌掲載の製品・サービスに関するお問い合わせ先

富士通コンタクトライン TEL 0120-933-200  
受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日・年末年始を除く)  
URL <http://jp.fujitsu.com/about/journal/contact/>

※本誌記事中のプログラム名、CPU名、システム名等は各メーカーの商標、または登録商標です。  
※本誌に掲載されている内容については、取材時点によるものです。

©富士通株式会社 2011 本誌記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。  
Copyright ©2011 by FUJITSU LIMITED